

新人議員が^{めく}地域を巡る 地区自慢

久木野六駐在区

田園風景が広がり緑豊かな環境に恵まれた静かな地域。区長会の会長でもいらっしゃる“荒牧幸吉”さんにお聞きました。

この地域と言えはの問いに、久木野神社をあげられました。

約300年前（天和2年）に勧請・社殿造営された久木野神社。片山嘉左衛門による水路（上河原井手）が開削の頃、水利の神として勧請されたもので、祭神は豊主姫命^{とよたまひめ}。もともとは冠岳（南外輪山）に鎮座しており、龍王社と呼ばれていたとの事。

農耕、水利の神様として、また守護神等として多くの方が参拝にいらっしゃるそうです。杉や銀杏の大木（御神木）とともに、地域の民そしてご縁ある人々の幸せな暮らしを願い、長きにわたり温かく見守って来られた久木野神社。穏やかな気持ちになる心地良い場所でした。

毎年行われる例大祭は、夏祭りが7月18日（おみこし獅子舞が地区を巡回）、秋祭りは10月15日（夜）に相撲（小学生参加）が奉納され賑わいます。

なお、現在の社殿は、熊本地震後に有志のご厚意により新設されたそうです。



両併一区



高森との境に位置する両併一区。今年度より新しく区長を引き継がれました“後藤操”さんにお聞きました。

この地域は米や蕎麦に加え、寒暖の差を活かしメロンやいちご、トマトなどの栽培が盛んであり、また、棚田の景観は、日本の伝統的な農業や地域の文化や歴史を象徴する美しさがありました。

両併全体で開催される夏祭りは、帰省する人が参加できるように、8月14日のお盆に合わせて開催。青壮年部員が知恵を出し合い運営されており、「両併地区みんなが主役」のコンセプトで大人から子どもまでステージに立ち、お祭りは大盛り上がりだそうです。この日を「約束の日」として両併地区の夏の風物詩として定着しているそうです。このお話を聞きながら、地域の結びつきの強さと温かさを感じました。

また、CM「麒麟午後の紅茶」のロケ地となった「見晴台駅」も両併一区ということで、両併3つの区の中で一番広い地区であり、また移住者も多く魅力的な地域でした。